

ひと

ダウン症の弟を主演にした映画を撮った監督

おしだ ころすけ
押田 興将 さん(43)



心神喪失者ノ行為ハ之ヲ罰セス
 「刑法39条があるから障害者はムシヨに入らなくていい」と詐欺師にだまされ、ダウン症と発達障害の兄弟が泥棒の旅に出る。公開中の「39(サンキュー)窃盗団」。主演はダウン症の弟清剛さん(35)Ⅱ下。もう1人の弟大さん(37)Ⅱ中Ⅱが知的障害者を演じた。

8人きょうだいの長男。10代は家でも学校でも暴れまくり、みんなに嫌われた。「話せるのは7番目の弟だけ。キヨだけが笑顔で自分を受け入れてくれた」。高校は数日で中退。でも、清剛さんの養護学校の遠足や運動会にはいつも付き添った。

「清剛さんには夢のために努力する権利がある」。養護学校の進路相談会で先生が言った。「お前も自分のために努力しろ」と言われたように聞こえた。

日本映画学校(現日本映画大学)を卒業し、故・今村昌平監督の最後の助監督に。「映画は人を描くものだ」と教えられ、「人とは何だ」と自問してきた。初監督の今作で、障害者は詐欺師にだまされ罪を犯し、売春させられ殴られる。犯罪を助長する、との評もある。「ただ彼らの直面する現実と、それでも明日に絶望しない強さをコメディで撮りたかった」

ラストシーンは、15年前から決めていた。「幸せとは何か。その答えは人それぞれいいんだと、弟の笑顔が教えてくれます」

文・斎藤寛子 写真・山本和生